

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                  |           |  |
|---------|------------------|-----------|--|
| 事業所番号   | 3570200778       |           |  |
| 法人名     | 有限会社 ピーエス興産      |           |  |
| 事業所名    | グループホーム サンきらら    |           |  |
| 所在地     | 山口県宇部市東岐波4327-26 |           |  |
| 自己評価作成日 | 令和5年1月13日        | 評価結果市町受理日 |  |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                      |  |  |
|-------|----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人広島県シルバーサービス振興会 |  |  |
| 所在地   | 広島市南区皆実町一丁目6-29      |  |  |
| 訪問調査日 | 令和5年2月8日             |  |  |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周防灘を一望できる恵まれた環境に立地しており、鳥やタヌキなど動物を見ることができ、自然や季節感を身近に感じることができます。施設内の共有空間は、家庭的な雰囲気となっており、入居者様と職員と一緒に家事を行いながら、ゆっくりと過ごしていただいています。食事は毎食、職員が手作りで提供しており、盛り付けやゴボウの笹がきなど、できる事は入居者様にお願ひしております。入居者様、職員が馴染みの関係を築き、穏やかに過ごせるように努めています。母体病院が協力医療機関である為、定期的な受診や急変時の対応など適切な医療が受けられるよう支援しています。個別サービスを常に頭に置きながら、入居者様、ご家族様の要望を踏まえた生活ができるように支援し、当施設の目標、運営理念に向かってより良いホームづくりを目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は運営理念と年度目標を策定し、職員は毎月の研修等で事例を通して理念を共有し、理念に沿った年度目標シートを作成している。事業所目標及び職員目標は半期毎にその達成度を検証している。利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来る自信になる事を大切にしている。朝食準備・掃除・朝の活動から昼の活動・夕食後の休息の流れの中で役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等、多彩な活動を通して張り合いや喜びのある生活作りを支援している。運営推進会議について、書面会議ながら多様な参加者と活発な意見交換がなされ、虐待・身体拘束防止委員会も同時開催して現況を議事録にて公開している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |  | 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 |   |
|----|--|-----------------------|--|----|--|-----------------------|---|
| 57 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:24. 25. 26)   | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない        | 64 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:10. 11. 20) | ○                     | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 58 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:19. 39)          | ○                     | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                       | 65 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2. 21)                     | ○                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 59 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:39)                 | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない         | 66 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:5)  | ○                     | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 60 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:38. 39)  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない         | 67 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:12. 13)                                      | ○                     | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 61 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:50)                | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない(コロナ禍の為) | 68 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う  | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 62 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:31. 32)      | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない         | 69 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                    | ○                     | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 63 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:29) | ○                     | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない         |    |  |                       |   |

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

| 自己                 | 外部  | 項目 ( 1階 )   | 自己評価   | 外部評価   |   |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |  |   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                      | 当施設の運営理念「利用者さんの各々のペースに合わせ、利用者さんと職員と一緒に家事を行う。利用者さんの趣味や特技を活かした役割を持つ事で生きがいを見つけないが、のんびりと楽しい生活を目指す。ご家族や地域との絆やふれ合いを大切に居心地の良いホームづくりに努める」を掲示し、理念を共有し、ケアに繋げている。     | 事業所は運営理念と年度目標を掲示して職員への周知を図り、ケア実践上の道しるべとしている。職員は毎月の職員会議や研修等の中で事例を通して理念を共有し、又理念に沿った年度目標シートを作成している。事業所目標及び職員目標は半期毎にその達成度を評価・検証している。   |   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している                      | 現在、コロナ禍の為、自治会主催の行事などに参加できていないのが実情だが、運営推進会議メンバーには、自治会長、地域の民生委員、ボランティアの方が参加しているので、地域の方との付き合いは継続できている。  | 自治会には加入しているが、現在はコロナ禍により様々な活動が自粛となっている。ただ散歩の際に近隣の人と挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れ等、相互交流もある。季節のドライブや受診等、日常的な外出支援や運営推進会議も書面開催ながら地域関係者との繋がりは続いている。 |   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                    | 運営推進会議で伝えたり、地域の方からの相談や認知症についての質問などがあった場合は、支援方法など説明している。  |  |   |
| 4                  | (3) | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。                | 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、サービスの質を少しでもあげられるように、業務の振り返りを行い、明確になった課題を解決できるように、具体的な改善方法を職員に聞きながら、管理者が提示し、実践、改善に取り組んでいる。                                | 自己評価は管理者が職員に評価の意義を説明し、原案を職員間で回覧し管理者が集約している。職員は評価を通して日頃の実践の課題を把握し、外部評価結果に基づいた目標を達成すべく具体的な改善に取り組んでいる。リスク管理に関する改善策を事業所目標の評価指標に繋げている。  |   |
| 5                  | (4) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者、ご家族、地域の民生委員やボランティアの方、市の担当者、母体病院の関係者で2カ月に1回書面にて開催(コロナ禍の為)している。利用者や職員の状況、行事、研修等について報告し、意見をいただき、サービス向上に活かしている。今年度は、コロナ禍の為、各ユニットにて、入居者と職員のみで、花見ドライブ等を実施した。 | 最近の会議はコロナ禍のため書面会議となり、参加予定の自治会長・民生委員・ボランティア・市担当者に会議資料を送付し、意見聴取をしている。意見として、マスク着用による熱中症への注意喚起やヒヤリハット報告を促して事故防止を図る等、ケアの見直しに繋がる助言を得ている。 | 会議には多様な職種の参加を得ているが、コロナ禍でもあり家族の参加は少ない。参加していない家族との事業所運営に関する情報の共有に不十分な面がある。今後は参加できない家族とのコロナ禍における情報交換の仕組み作りを通して更なる会議の活性化を期待したい。 |

| 自己 | 外部  | 項目 ( 1階 )   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
|    |     |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6  | (5) | ○市町との連携<br>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる  | 市担当者とは、運営推進会議時や、電話やメールにて、情報交換や申請内容と手続きについて相談し、助言を得る等協力関係を築けるよう取り組んでいる。ケアサービスの向上を目的に、年数回、宇部市役所に申し込みをし出前講座にて研修を実施している。                        | 市担当課とは日頃の相談・報告の他、運営推進会議の事前照会で運営情報を共有している。又、年数回、高齢者虐待・身体拘束防止のため市に出前講座を依頼し、それを踏まえて運営推進会議で虐待・身体拘束防止委員会を開催して事業所の現状を議事録にて公開し、評価・検証している。 |                   |
| 7  | (6) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については、ホームの指針を示し、ホーム内研修や宇部市の出前講座にて学び全職員が身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、入居者の安全と防犯等の観点から施錠しているが、外に出たい入居者とは、職員と一緒に外出している。        | 2ヶ月毎の運営推進会議時に身体拘束・虐待委員会を開催し、毎月の内部研修と市の出前講座の受講等を通し職員は「拘束をしない」必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。又不適切なケアに対し職員間で注意し合える関係性もある。見守り同行以外、玄関は施錠している。 |                   |
| 8  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                     | 高齢者虐待については、定期的にホーム内で研修を行い、どのような事が虐待にあたるのかケアの不備等話し合い、防止に努めている。また、宇部市の出前講座にて学び、虐待についての知識を得ている。運営推進会議時を活用し、虐待防止対策委員会を設け、ホーム内の現状を報告し、意見等を頂いている。 |  |                   |
| 9  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している                                 | 権利擁護に関しては、宇部市の出前講座にて学んでいる。現在、1名の入居者が制度を利用されており、担当司法書士の方と密に連絡を取り合い支援している。  |  |                   |
| 10 |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている  | 契約書・重要事項説明書については、契約締結時に、十分説明し、理解、納得してもらえるように心がけている。契約終了時には、不安、疑問点の有無を確認し、契約内容了承後に捺印して頂くようにしている。   |  |                   |

| 自己 | 外部  | 項目 ( 1階 )  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族へ説明している。運営推進会議や担当者会議、面会時に電話等で意見や要望を聞き、記録して職員間で共有し、改善点があれば検討している。また、報告すべき内容であれば運営推進会議や、かもめ通信にて報告している。          | 家族の要望は窓越し面会・電話連絡・介護計画更新等を通して把握し、職員は毎月の職員会議等で共有して迅速な対応に努めている。利用者からの帰宅願望の電話に対し家族から苦情があったので家族には認知症への理解を促し、利用者には穏やかな生活に向けた支援に努めた例がある。   |                   |
| 12 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている  | ホーム内研修時や、職員との面談時に運営に関する意見や要望を職員が管理者に伝える機会を設けている。他、管理者や主任は日常業務の中で意見をその都度聞いている。建設的な意見があれば、随時受け入れ職員の意見を運営に反映している。                          | 毎月の職員会議、部会活動、随時又は年2回の個別面談等を通し、管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制を採っている。転落防止のベッド柵や利用者向き合える対面キッチンの導入等、年度目標である「ケアの統一化」に繋げた例がある。     |                   |
| 13 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている                | 年度末に各職員の自己評価を実施し、夏季、冬季の年2回人事評価を実施。それぞれ期末手当、賞与へ反映させることにより、理念の浸透やよりよいサービスの徹底に向けて各自が努力する体制を図っている。  |   |                   |
| 14 | (9) | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている                   | 外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて、勤務の一環として受講の機会を提供している。事業所研修は年間計画を立て実践している。学研のeラーニングにて全員が研修を受けられるように配慮した。目標シートを各自で記入してもらい、管理者が面談をし、職員の力量を把握している。 | 事業所は年間計画に基づき毎月内部研修を実施し、外部研修案内の中から各自の力量に応じた階層的な研修を提案している。職員も目標シートにて自己啓発を図り個人面談にて検証している。外部事業者による医療介護のeラーニング・市の出前講座や新人研修・OJTにも取り組んでいる。 |                   |
| 15 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている           | 外部研修へ参加することで、他施設との交流を図っている。以前はホームの運動会に他施設の方を招待していたが、現在コロナ禍の為、中止している。  |   |                   |

| 自己                         | 外部 | 項目 ( 1階 )  | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
|                            |    |  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |  |   |      |                   |
| 16                         |    | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所当初にアセスメントを行い、要望や困りごと等を聞き、サービス計画を作成し、支援している。特に初期は、入居生活に慣れていただけるように、職員が間に入り、他入居者とコミュニケーションが図れるように支援している。              |      |                   |
| 17                         |    | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 入所当初に、ご家族より困りごとや要望等を聞き、サービス計画を作成し、支援している。随時、特に初期には、ご家族に安心していただけるように、生活状況の報告・連絡等を密にとるようにしている。                          |      |                   |
| 18                         |    | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | アセスメントを行い、利用者のご家族が希望される生活を提供する為に、何が必要なかをカンファレンス時に提案、確認し支援している。  |      |                   |
| 19                         |    | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 職員一同、家庭的な生活を念頭におき、利用者お一人お一人の得意分野(調理や盛り付け・園芸・編み物・マット拭き・テーブル拭き・床掃除・洗濯物たたみ・洗濯物干し等)を活かし、職員と利用者が助け合いながら生活できるように支援している。     |      |                   |
| 20                         |    | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | ご家族の来訪時、ケアカンファレンス時、または書面や電話にて利用者状況の報告や支援方法について相談・確認している。また、ご家族とのふれあいを多く持つように、年に数回、ご家族参加の行事を行っていたが、現在は、コロナ禍の為中止となっている。 |      |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目 ( 1階 )   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
|                                    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21                                 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                    | 家族・知人・友人・近隣の方などの来訪があった場合は、現在コロナ禍の為、ガラス越しにて対応している。利用者が電話を希望される時は、電話をかけ、話しをしてもらっている。馴染みの場所への散歩、馴染みの店での買い物支援を行っていたが、現在は、コロナ禍の為中止している。            | 家族には毎月「かもめ通信」を送付し、利用者の近況報告をしている。又電話を介した窓越し面会や手紙・電話の取り次ぎやドライブ等、馴染みの場所・馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に関わり、利用者の笑顔・家族の安心等、気持ちに寄り添った支援に努めている。  |                   |
| 22                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                | 利用者お一人お一人の性格を理解し、良好な関係が築けるように、職員が間に入り支援している。また、得意分野のお手伝いをお願いするなど、支え合って生活できるように努めている。  |   |                   |
| 23                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了となられる利用者には、面会して関係が継続するよう努めている。また、入院先での支援方法の相談や退院後の対応等について相談があれば、受け入れ支援している。   |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |   |   |   |                   |
| 24                                 | (11) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | 受持ち利用者を決めて、センター方式のアセスメント表「私の姿と気持ちシート」を利用し、心身の状況や希望・意向の把握に努めている。作成したシートには、担当者以外の職員も目を通し、補足があれば書き込みを行い、職員間で情報を共有し、その人らしい生活が送れるようなケアプラン作成に努めている。 | 職員は利用者と一緒に話さず深く関わりを持ち、思いを汲み取り「私の姿と気持ちシート」や介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。昔社交ダンスをしていた利用者をゴミ捨て散歩に誘い、困り事をうまく表せない利用者が漏らした本音から思いを汲み取る様努めている。 |                   |
| 25                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                    | 入所時にアセスメントを行い、必要な情報を利用者、ご家族より得るようにしている。また、以前利用されていたサービスがあれば、事業所より情報をいただいている。  |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目 ( 1階 )  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 心身状況・生活状況は、個人記録・日誌・熱型表に記録し、現状を把握している。異常時は、申し送りノートに記入し、申し送り時に報告する等、現状の把握に努めている。  |  |                   |
| 27 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者・ご家族の思いや意向、他関係者からの意見を参考して話し合い、サービス計画に反映させている。モニタリングは1カ月ごとに受け持ち職員が行い、また、サービス計画は6か月ごとに担当者会議を行い、見直し作成をしている。利用者の状態や要望に変化があれば、その都度見直しを行っている。現在、担当者会議はコロナ禍により、書面や電話にて実施している。 | 関係職種の意見も反映した計画原案を担当者会議で検討し家族の同意を得て本案としている。担当職員が毎月モニタリングを行い、計画作成担当者が集約して半年を基本に計画を見直している。窓越し面会で体力低下を心配した家族の想いを踏まえ、転倒防止の体力作りに取り組んでいる。 |                   |
| 28 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の様子やケアの実践については、個別記録に記入している。ケアの経過や気づきは1カ月ごとに評価を行い、その記録により、サービス計画を見直している。記録は職員が目を通し、情報を共有している。  |  |                   |
| 29 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる             | 利用者お一人お一人の希望・意向に添えるように、既存のサービス以外の支援が必要な場合には、個人的にサービスを行っている。(買い物等)   |  |                   |
| 30 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | 運営推進会議(現在コロナ禍の為、書面開催)に民生委員や近隣のボランティアの方にも参加していただき、意見交換を行い地域資源の把握に努めている。地域のボランティアの方の来訪や学校のインターシップを受け入れるようにはしているが、現在、コロナ禍の為、中止している。  |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目 ( 1階 )   | 自己評価   | 外部評価   |  |
|----|------|---|--|--|--|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 31 | (13) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                    | 本人・ご家族の希望するかかりつけ医と、事業所の協力医が主治医となっている。受診時には付き添い、家族との情報共有に努めている。緊急時には、往診を依頼する等、適切な医療を受けられるように努めている。  | 利用前の主治医の受診継続も可能だが、全利用者は協力医を主治医としている。職員と月1回協力医に受診し、協力歯科医は随時往診可能である。専門医の受診は主に家族が協力している。又、常勤2名、非常勤1名の看護職員の配置もあり、適切な医療を受けられる体制を築いている。    |  |
| 32 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                            | 職場内の看護職員と24時間体制で連絡・相談できる。また、介護職がとらえた情報については、朝の申し送りや職場内の看護職員に報告し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。   |  |  |
| 33 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。   | 入院時には、介護情報提供書を持参し、利用者が安心して治療できるよう支援している。協力病院関係者とは、日頃より情報交換を行い、退院カンファレンスに出席し、早期退院ができるよう関係づくりに努めている。   |  |  |
| 34 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる    | 「重症化した場合の指針」があり、入所時に重症化した場合の対応について説明し、担当者会議や必要時に状態報告を行い、話し合っている。実際に重症化した場合には、早い段階から本人や家族の意向を踏まえ、主治医や看護師、家族と話し合い、医療機関や他施設へ移ることも含めて方針を決めて皆で共有し、支援に取り組んでいる。 | 利用開始時、「重症化した場合の指針」にて基本的な方針を説明し理解を得ている。原則看取りは行わず、重度化した際には関係者と話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。協力医との医療連携をもとに入院等による十分な医療・介護支援体制に取り組む方針である。   |  |
| 35 | (15) | ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え<br>転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。 | 医療安全委員を設け、インシデント・アクシデントレポートの提出時は、情報共有を行い、対策を検討している。緊急時の対応マニュアルの見直しや、ホーム内研修等により、定期的に初期対応の訓練を行い、実践力を身につけている。利用者の転倒予防を目的に、毎日ラジオ体操、廊下歩行等を行っている。              | 報告すべき事件・事故の分類レベルの改定を2年前に医療安全委員会で行い、運営推進会議での助言もあり、現在ヒヤリハット(レベル0)の事例報告に努めている。事故防止の実践力に繋げるべく内部研修でAEDの活用、転倒・転落対策、夜間帯のユニット連携体制等の共有に努めている。 | 急変や事故発生時に備えてマニュアルの整備や事故報告書の活用等を通して事案に対応している。ただ各職員の初期対応力について、一定の実践力を保つ平準化に課題がある。計画・実行・評価・改善を踏まえた、更なる実践力の育成に向けた取り組みを期待したい。 |



| 自己                               | 外部   | 項目 ( 1階 )  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36                               | (16) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | 年1回法人と連携して、休日・夜間を想定した通報、消火、避難訓練を利用者、地域の方も参加して実施していたが、現在はコロナ禍の為、地域の方は参加していない。避難場所は法人となっており、自治会との災害時の協定書があり、地域の方との協力体制を築いている。 | 消防署指導のもとに夜間想定、利用者も参加して避難訓練を法人合同で年1回、事業所独自で年1回行っている。ハザードマップでは非該当地域だが、自治会と防災協定を締結し、避難場所は自治会館・法人となっている。減災対策の備蓄については隣接母体法人の後方支援体制もある。       |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |   |                   |
| 37                               | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                | 誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。ケアの中で不適切な対応があれば、その都度職員間で注意合っている。毎月行っているホーム内研修にて倫理についての研修を行い、個人情報には適切に管理し、守秘義務は遵守している。          | 研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図っている。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応にはその場で気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。呼称は全員さん付けで統一している。かもめ通信での写真掲載等も事前の承諾を得ている。 |                   |
| 38                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | サービス計画作成者や担当の介護者が、定期的に本人の思いや希望を聞くようにしている。また、介護者が全てを決めるのではなく、本人の情報・言語・行動を考え、自己決定できるように働きかけている。基本的には、本人の希望に添ったケアを心がけている。      |   |                   |
| 39                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日をどのように過ごしたいかは、それぞれ毎日変化するので、今日はどう過ごしたいのか、利用者の思いを尊重して支援している。   |   |                   |
| 40                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | ご自分で服を選び、身だしなみを整えていただくよう支援している。お一人では難しい場合には、介護者が手伝い、身だしなみを整えるようにしている。   |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目 ( 1階 )  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている   | 利用者の意見や好みを聞き、地元の食材や近所からの差し入れの野菜、事業所で採れた野菜を使用し、3食とも職員が調理している。また、利用者は、下ごしらえ(牛蒡の笹がき、豆の皮むき等)盛り付けや配膳、テーブル拭き、マット拭き等、できる事を職員と一緒にやっている。利用者の希望や特技によっては、調理も行ってもらっている。 | 献立は季節・利用者の好み等を参考に三食手作り、利用者は職員と少し離れた黙食である。調理を手伝う利用者の他、各々配膳等の役割を担ったり、干し柿等、おやつ作りにも参加している。収穫野菜を活用したり、1階は敷地内、2階はベランダで弁当ピクニック等の工夫もしている。  |                   |
| 42 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている        | 献立を日々記録し、バランスよく栄養が摂れるように配慮している。水分は10時の牛乳飲料を含め3度の食事、15時のおやつ時他、外出からの帰所時は水分補給を行い、水分量を把握している。適宜、水分摂取ができるように配慮している。利用者によっては、お粥や刻み食で摂取しやすい形態でお出している。              |  |                   |
| 43 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                 | 毎食後、個々の能力に合わせて口腔ケアの支援や介助を行い、口腔状態を確認している。また、必要時には、本人・ご家族と相談の上、歯科往診を依頼している。   |  |                   |
| 44 | (19) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個々の排泄パターンや排泄の状況を把握し、さりげなくトイレに促すように支援している。また、日中・夜間ともオムツの使用はせずに、トイレでの排泄に努めている。介助拒否がある場合は、職員を変えて対応している。  | 排泄記録表で排泄パターンを把握したトイレ誘導を基本としている。退院時の紙おむつから布パンツへの移行等、利用者の状態に合わせた排泄の自立支援を行っている。尊厳やプライバシーに配慮してケアに関わり、夜間排泄時の転倒防止に赤外線離床センサーを設置する等の工夫もある。 |                   |
| 45 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                 | 個々の排便状況の把握に努め、水分摂取や適度な運動(廊下歩行や体操)等を行い、便秘予防に努めている。スムーズな排便を促すため、必要に応じて緩下剤の服用にて調整している。   |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目 ( 1階 )   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている                          | 入浴の曜日はこちらで設定しているが、ご本人の希望により、随時変更している。入浴拒否がある場合は、無理強いないで、時間や日にちを変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫を行い対応している。楽しく入浴できるように、季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤等を使用し、季節感や温泉の雰囲気を出す等、環境設定を図っている。   | 週2回の午後浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ柔軟に対応している。利用者によりシャワー浴や足浴等に対応することもある。入浴は貴重なコミュニケーションの場だが、コロナ禍の現在は黙浴となっている半面、季節の菖蒲湯・柚子湯や音楽を流す等の工夫をしている。 |                   |
| 47 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 日中、個々に合わせて日常生活の活性化を図り、状況に応じては休息を促し、夜間安眠ができるように支援している。必要に応じては、主治医と相談し、睡眠剤を使用し、安眠を促している。  |   |                   |
| 48 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 薬の目的・副作用・用法については、職員が把握できるように、個人記録に綴じている。確実に内服ができるように支援している。薬の変更があった場合は、申し送りノートに記入し、情報の共有に努めている。   |   |                   |
| 49 | (21) | ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                     | 本人の特技・趣味・生活歴を活かして編み物や園芸・生け花・家事当番(調理・食事の盛り付け・配膳・食器拭き・テーブル拭き・洗濯物たたみ等)の活躍できる場面作りをして、張り合いや喜びを持っていただき、レクリエーション時には、合唱・カルタ・ビンゴ・外気浴等で気分転換を図り、楽しく生活できるように支援している。 | 利用者の生活歴から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。朝食準備・掃除・朝の活動から昼の活動・夕食後の休息の流れの中で役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等、張り合いや喜びのある生活作りを支援している。 |                   |
| 50 | (22) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は、本人の希望を聞き、外気浴や散歩にでかけている。また、ドライブ・お花見・買い物等でご家族や地域の方とのふれあいを多くもてるように支援していたが、現在コロナ禍の為中止している。  | コロナ禍で外出は花壇の手入れ、馴染みの地蔵尊等の近隣散歩、受診、桜・バラ見物ドライブ等を行っている。コロナ禍の収束状況により、従来実施していた季節の外出行事や地域行事等で「非日常」を楽しんだり、自宅への一時的な帰宅や外食等で気分転換を図りたい意向もある。   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目 ( 1階 )  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 基本的には、金庫で預り金を管理し、本人が買い物希望した時は、お金を所持してもらい、買い物の支援をしていたが、現在はコロナ禍の為、職員が買い物をし、本人に買った物、レシート、預り金の確認をしてもらっている。                                    |  |                   |
| 52 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話や手紙の支援については、希望や能力に合わせて対応し、特に電話はプライバシーに配慮し、自由に話せる環境作りを行っている。   |  |                   |
| 53 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 海を眺める事ができるリビングは、明るく、テレビやテーブル椅子等を配置している。花を育てたり、切り花を飾ったり、折々の季節に応じた飾りつけをするなど、季節を体感できるように心がけている。出来るだけ自然の採光を取り入れ、室温に対しても温度調節を行い、適温を保つように努めている。 | 屋内外の花や行事の飾り付け、利用者とする壁掛け作品等で季節の移ろいを感じられる様配慮している。壁には家事当番表が掲示され、掃除・洗濯等の生活感も取り入れている。感染症対策で消毒や換気等にも万全を期している。                              |                   |
| 54 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 共用空間としてはリビングがあり、廊下や玄関にもソファを配置しており、一人でも少人数でも、くつろいで頂けるように工夫している。  |  |                   |
| 55 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 入所時、今まで使用されていた馴染みの家具やテーブル、好みの日用品、化粧品、テレビ、ラジオ等を持ち込まれ、家庭的な雰囲気の中で居心地よく過ごして頂けるように工夫している。  | 居室には寄贈や福祉用具貸与のベッド、クローゼット等が備え付けられている。化粧品等、使い慣れた物や喋る人形等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。又、孫の書いた記事が掲載されている1週間分の新聞を持ち込み「これが孫よ、これが名前よ」と話す利用者もいる。 |                   |

| 自己 | 外部 | 項目（1階）  | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----|----|---|---|------|-------------------|
|    |    |   | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 56 |    | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の能力に合わせて、出来る事はご自分で行って頂けるような環境作りに配慮している。必要に応じ、トイレの場所が分からなくなってしまう利用者に対し、廊下に配色テープを貼り、スムーズな移動ができるようにしている。 |      |                   |

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

| 自己                | 外部  | 項目 ( 2階 )   | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|-------------------|-----|---|---|------|-------------------|
|                   |     |   | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I 理念に基づく運営</b> |     |   |   |      |                   |
| 1                 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                      | 当施設の運営理念「利用者さんの各々のペースに合わせ、利用者さんと職員と一緒に家事を行う。利用者さんの趣味や特技を活かした役割を持つ事で生きがいを見つけながら、のんびりと楽しい生活を目指す。ご家族や地域との絆やふれ合いを大切に居心地の良いホームづくりに努める」を掲示し、理念を共有し、ケアに繋げている。    |      |                   |
| 2                 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している                      | 現在、コロナ禍の為、自治会主催の行事などに参加できていないのが実情だが、運営推進会議メンバーには、自治会長、地域の民生委員、ボランティアの方が参加しているので、地域の方との付き合いは継続できている。   |      |                   |
| 3                 |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                    | 運営推進会議で伝えたり、地域の方からの相談や認知症についての質問などがあつた場合は、支援方法など説明している。   |      |                   |
| 4                 | (3) | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。                | 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、サービスの質を少しでもあげられるように、業務の振り返りを行い、明確になった課題を解決できるように、具体的な改善方法を職員に聞きながら、管理者が提示し、実践、改善に取り組んでいる。                               |      |                   |
| 5                 | (4) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者、ご家族、地域の民生員やボランティアの方、市の担当者、母体病院の関係者で2カ月に1回書面にて開催(コロナ禍の為)している。利用者や職員の状況、行事、研修等について報告し、意見をいただき、サービス向上に活かしている。今年度は、コロナ禍の為、各ユニットにて、入居者と職員のみで、花見ドライブ等を実施した。 |      |                   |

| 自己 | 外部  | 項目（2階）  | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----|-----|---|---|------|-------------------|
|    |     |   | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6  | (5) | ○市町との連携<br>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる  | 市担当者とは、運営推進会議時や、電話やメールにて、情報交換や申請内容と手続きについて相談し、助言を得る等協力関係を築けるよう取り組んでいる。ケアサービスの向上を目的に、年数回、宇部市役所に申し込みをし出前講座にて研修を実施している。                        |      |                   |
| 7  | (6) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については、ホームの指針を示し、ホーム内研修や宇部市の出前講座にて学び全職員が身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、入居者の安全と防犯等の観点から施錠しているが、外に出たい入居者とは、職員と一緒に外出している。        |      |                   |
| 8  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                     | 高齢者虐待については、定期的にホーム内で研修を行い、どのような事が虐待にあたるのかケアの不備等話し合い、防止に努めている。また、宇部市の出前講座にて学び、虐待についての知識を得ている。運営推進会議時を活用し、虐待防止対策委員会を設け、ホーム内の現状を報告し、意見等を頂いている。 |      |                   |
| 9  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している                                 | 権利擁護に関しては、宇部市の出前講座にて学んでいる。現在、1名の入居者が制度を利用されており、担当司法書士の方と密に連絡を取り合い支援している。  |      |                   |
| 10 |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている  | 契約書・重要事項説明書については、契約締結時に、十分説明し、理解、納得してもらえるように心がけている。契約終了時には、不安、疑問点の有無を確認し、契約内容了承後に捺印して頂くようにしている。   |      |                   |

| 自己 | 外部  | 項目 ( 2階 )  | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族へ説明している。運営推進会議や担当者会議、面会時に電話等で意見や要望を聞き、記録して職員間で共有し、改善点があれば検討している。また、報告すべき内容であれば運営推進会議や、かもめ通信にて報告している。          |      |                   |
| 12 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている  | ホーム内研修時や、職員との面談時に運営に関する意見や要望を職員が管理者に伝える機会を設けている。他、管理者や主任は日常業務の中で意見をその都度聞いている。建設的な意見があれば、随時受け入れ職員の意見を運営に反映している。                          |      |                   |
| 13 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている                | 年度末に各職員の自己評価を実施し、夏季、冬季の年2回人事評価を実施。それぞれ期末手当、賞与へ反映させることにより、理念の浸透やよりいサービスの徹底に向けて各自が努力する体制を図っている。   |      |                   |
| 14 | (9) | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている                   | 外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて、勤務の一環として受講の機会を提供している。法人研修は年間計画を立て実践している。学研のe-ラーニングにて全員が研修を受けられるように配慮した。目標シートを各自で記入してもらい、管理者が面談をし、職員の力量を把握している。 |      |                   |
| 15 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている           | 外部研修へ参加することで、他施設との交流を図っている。以前はホームの運動会に他施設の方を招待していたが、現在コロナ禍の為、実施できていない。  |      |                   |



| 自己                         | 外部 | 項目 ( 2階 )  | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
|                            |    |  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |  |   |      |                   |
| 16                         |    | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所当初にアセスメントを行い、要望や困りごと等を聞き、サービス計画を作成し、支援している。特に初期は、入居生活に慣れていただけるように、職員が間に入り、他入居者とコミュニケーションが図れるように支援している。              |      |                   |
| 17                         |    | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 入所当初に、ご家族より困りごとや要望等を聞き、サービス計画を作成し、支援している。随時、特に書記には、ご家族に安心していただけるように、生活状況の報告・連絡等を密にとるようにしている。                          |      |                   |
| 18                         |    | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | アセスメントを行い、利用者のご家族が希望される生活を提供する為に、何が必要なかをカンファレンス時に提案、確認し支援している。  |      |                   |
| 19                         |    | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 職員一同、家庭的な生活を念頭におき、利用者お一人お一人の得意分野(調理や盛り付け・園芸・編み物・マット拭き・テーブル拭き・床掃除・洗濯物たたみ・洗濯物干し等)を活かし、職員と利用者が助け合いながら生活できるように支援している。     |      |                   |
| 20                         |    | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | ご家族の来訪時、ケアカンファレンス時、または書面や電話にて利用者状況の報告や支援方法について相談・確認している。また、ご家族とのふれあいを多く持つように、年に数回、ご家族参加の行事を行っていたが、現在は、コロナ禍の為中止となっている。 |      |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目（2階）  | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|------------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
|                                    |      |   | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21                                 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                    | 家族・知人・友人・近隣の方などの来訪があった場合は、現在コロナ禍の為、ガラス越しにて対応している。利用者が電話を希望される時は、電話をかけ、話しをしてもらっている。馴染みの場所への散歩、馴染みの店での買い物支援を行っていたが、現在は、コロナ禍の為中止している。            |      |                   |
| 22                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                | 利用者お一人お一人の性格を理解し、良好な関係が築けるように、職員が間に入り支援している。また、得意分野のお手伝いをお願いするなど、支え合って生活できるように努めている。  |      |                   |
| 23                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了となられる利用者には、面会して関係が継続するよう努めている。また、入院先での支援方法の相談や退院後の対応等について相談があれば、受け入れ支援している。   |      |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |   |   |      |                   |
| 24                                 | (11) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | 受持ち利用者を決めて、センター方式のアセスメント表「私の姿と気持ちシート」を利用し、心身の状況や希望・意向の把握に努めている。作成したシートには、担当者以外の職員も目を通し、補足があれば書き込みを行い、職員間で情報を共有し、その人らしい生活が送れるようなケアプラン作成に努めている。 |      |                   |
| 25                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                    | 入所時にアセスメントを行い、必要な情報を利用者、ご家族より得るようにしている。また、以前利用されていたサービスがあれば、事業所より情報をいただいている。  |      |                   |

| 自己 | 外部   | 項目（ 2階 ）   | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----|------|--|---|------|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 心身状況・生活状況は、個人記録・日誌・熱型表に記録し、現状を把握している。異常時は、申し送りノートに記入し、申し送り時に報告する等、現状の把握に努めている。  |      |                   |
| 27 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者・ご家族の思いや意向、他関係者からの意見を参考して話し合い、サービス計画に反映させている。モニタリングは1カ月ごとに受け持ち職員が行い、また、サービス計画は6か月ごとに担当者会議を行い、見直し作成をしている。利用者の状態や要望に変化があれば、その都度見直しを行っている。現在、担当者会議はコロナ禍により、書面や電話にて実施している。 |      |                   |
| 28 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の様子やケアの実践については、個別記録に記入している。ケアの経過や気づきは1か月ごとに評価を行い、その記録により、サービス計画を見直している。記録は職員が目を通し、情報を共有している。  |      |                   |
| 29 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 利用者お一人お一人の希望・意向に添えるように、既存のサービス以外の支援が必要な場合には、個人的にサービスを行っている。（買い物等）   |      |                   |
| 30 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                         | 運営推進会議（現在コロナ禍の為、書面開催）に民生委員や近隣のボランティアの方にも参加していただき、意見交換を行い地域資源の把握に努めている。地域のボランティアの方の来訪や学校のインターシップを受け入れるようにはしているが、現在、コロナ禍の為、中止している。  |      |                   |

| 自己 | 外部   | 項目 ( 2階 )   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|----|------|---|--|------|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | (13) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                    | 本人・ご家族の希望するかかりつけ医と、事業所の協力医が主治医となっている。受診時には付き添い、家族との情報共有に努めている。緊急時には、往診を依頼する等、適切な医療を受けられるように努めている。  |      |                   |
| 32 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                            | 職場内の看護職員と24時間体制で連絡・相談できる。また、介護職がとらえた情報については、朝の申し送りや職場内の看護職員に報告し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。   |      |                   |
| 33 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。   | 入院時には、介護情報提供書を持参し、利用者が安心して治療できるよう支援している。協力病院関係者とは、日頃より情報交換を行い、退院カンファレンスに出席し、早期退院ができるよう関係づくりに努めている。   |      |                   |
| 34 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる    | 「重症化した場合の指針」があり、入所時に重症化した場合の対応について説明し、担当者会議や必要時に状態報告を行い、話し合っている。実際に重症化した場合には、早い段階から本人や家族の意向を踏まえ、主治医や看護師、家族と話し合い、医療機関や他施設へ移ることも含めて方針を決めて皆で共有し、支援に取り組んでいる。 |      |                   |
| 35 | (15) | ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え<br>転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。 | 医療安全委員会を設け、インシデント・アクシデントレポートの提出時は、情報共有を行い、対策を検討している。緊急時の対応マニュアルの見直しや、ホーム内研修等により、定期的に初期対応の訓練を行い、実践力を身につけている。利用者の転倒予防を目的に、毎日ラジオ体操、廊下歩行等を行っている。             |      |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目 ( 2階 )  | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36                               | (16) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | 年1回法人と連携して、休日・夜間を想定した通報、消火、避難訓練を利用者、地域の方も参加して実施していたが、現在はコロナ禍の為、地域の方は参加していない。避難場所は法人となっており、自治会との災害時の協定書があり、地域の方との協力体制を築いている。 |      |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |      |                   |
| 37                               | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                | 誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。ケアの中で不適切な対応があれば、その都度職員間で注意し合っている。毎月行っているホーム内研修にて倫理についての研修を行い、個人情報 は適切に管理し、守秘義務は遵守している。         |      |                   |
| 38                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | サービス計画作成者や担当の介護者が、定期的に本人の思いや希望を聞くようにしている。また、介護者が全てを決めるのではなく、本人の情報・言語・行動を考え、自己決定できるように働きかけている。基本的には、本人の希望に添ったケアを心がけている。      |      |                   |
| 39                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日をどのように過ごしたいかは、それぞれ毎日変化するので、今日はどう過ごしたいのか、利用者の思いを尊重して支援している。   |      |                   |
| 40                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | ご自分で服を選び、身だしなみを整えていただくよう支援している。お一人では難しい場合には、介護者が手伝い、身だしなみを整えるようにしている。   |      |                   |

| 自己 | 外部   | 項目（2階）   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|----|------|--|--|------|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている   | 利用者の意見や好みを聞き、地元の食材や近所からの差し入れの野菜、事業所で採れた野菜を使用し、3食とも職員が調理している。また、利用者は、下ごしらえ(牛蒡の笹がき、豆の皮むき等)盛り付けや配膳、テーブル拭き、マット拭き等、できる事を職員と一緒にに行っている。利用者の希望や特技によっては、調理も行ってもらっている。 |      |                   |
| 42 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている        | 献立を日々記録し、バランスよく栄養が摂れるように配慮している。水分は10時の牛乳飲料を含め3度の食事、15時のおやつ時他、外出からの帰所時は水分補給を行い、水分量を把握している。適宜、水分摂取ができるように配慮している。利用者によっては、お粥や刻み食で摂取しやすい形態でお出ししている。              |      |                   |
| 43 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                 | 毎食後、個々の能力に合わせて口腔ケアの支援や介助を行い、口腔状態を確認している。また、必要時には、本人・ご家族と相談の上、歯科往診を依頼している。  |      |                   |
| 44 | (19) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個々の排泄パターンや排泄の状況を把握し、さりげなくトイレに促すように支援している。また、日中・夜間ともオムツの使用はせずに、トイレでの排泄に努めている。介助拒否がある場合は、職員を変えて対応している。   |      |                   |
| 45 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                 | 個々の排便状況の把握に努め、水分摂取や適度な運動(廊下歩行や体操)等を行い、便秘予防に努めている。スムーズな排便を促すため、必要に応じて緩下剤の服用にて調整している。  |      |                   |

| 自己 | 外部   | 項目 ( 2階 )   | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----|------|---|---|------|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている                          | 入浴の曜日はこちらで設定しているが、ご本人の希望により、随時変更している。入浴拒否がある場合は、無理強いしないで、時間や日にちを変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫を行い対応している。楽しく入浴できるように、季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤等を使用し、季節感や温泉の雰囲気を出す等、環境設定を図っている。  |      |                   |
| 47 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 日中、個々に合わせて日常生活の活性化を図り、状況に応じては休息を促し、夜間安眠ができるように支援している。必要に応じては、主治医と相談し、睡眠剤を使用し、安眠を促している。  |      |                   |
| 48 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 薬の目的・副作用・用法については、職員が把握できるように、個人記録に綴じている。確実に内服ができるように支援している。薬の変更があった場合は、申し送りノートに記入し、情報の共有に努めている。   |      |                   |
| 49 | (21) | ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                     | 本人の特技・趣味・生活歴を活かして編み物や園芸・生け花・家事当番(調理・食事の盛り付け・配膳・食器拭き・テーブル拭き・洗濯物たたみ等)の活躍できる場面作りをして、張り合いや喜びを持っていただき、レクリエーション時には、合唱・カルタ・ビンゴ・外気浴等で気分転換を図り、楽しく生活できるように支援している。 |      |                   |
| 50 | (22) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は、本人の希望を聞き、外気浴や散歩にでかけている。また、ドライブ・お花見・買い物等でご家族や地域の方とのふれあいを多くもてるように支援していたが、現在コロナ禍の為中止している。  |      |                   |

| 自己 | 外部   | 項目（ 2階 ）   | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----|------|--|---|------|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 基本的には、金庫で預り金を管理し、本人が買い物を希望した時は、お金を所持してもらい、買い物の支援をしていたが、現在はコロナ禍の為、職員が買い物をし、本人に買った物、レシート、預り金の確認をしてもらっている。                                   |      |                   |
| 52 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話や手紙の支援については、希望や能力に合わせて対応し、特に電話はプライバシーに配慮し、自由に話せる環境作りを行っている。   |      |                   |
| 53 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 海を眺める事ができるリビングは、明るく、テレビやテーブル椅子等を配置している。花を育てたり、切り花を飾ったり、折々の季節に応じた飾りつけをするなど、季節を体感できるように心がけている。出来るだけ自然の採光を取り入れ、室温に対しても温度調節を行い、適温を保つように努めている。 |      |                   |
| 54 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 共用空間としてはリビングがあり、廊下や玄関にもソファを配置しており、一人でも少人数でも、くつろいで頂けるように工夫している。  |      |                   |
| 55 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 入所時、今まで使用されていた馴染みの家具やテーブル、好みの日用品、化粧品、テレビ、ラジオ等を持ち込まれ、家庭的な雰囲気の中で居心地よく過ごして頂けるように工夫している。  |      |                   |



| 自己 | 外部 | 項目（ 2階 ）  | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----|----|---|---|------|-------------------|
|    |    |   | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 56 |    | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の能力に合わせて、出来る事はご自分で行って頂けるような環境作りに配慮している。必要に応じ、トイレの場所が分からなくなってしまう利用者に対し、廊下に配色テープを貼り、スムーズな移動ができるようにしている。 |      |                   |

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホーム サンきらら

作成日

令和5年3月24日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点, 課題  | 目標                            | 目標達成に向けた具体的な取組み内容   | 目標達成に要する期間 |
|------|------|--|-------------------------------|---|------------|
| 1    | 35   | 急変時、事故発生時に備え、マニュアルの整備、研修を行っているが、各職員が、初期対応力について一定の実践力を保てていないという課題がある。 | 各職員が初期対応力について、一定の実践力を保つ事ができる。 | インシデント、アクシデントレポート等を元に、急変、事故発生時の初期対応について、実践形式での研修を企画し、実施、評価していく。 | 1年以内       |
| 2    |      |  |                               |   |            |
| 3    |      |  |                               |   |            |
| 4    |      |  |                               |   |            |
| 5    |      |  |                               |   |            |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。